

パリDAC 通信(「パリ宣言」達成は遠い道のりか～第2回パリ宣言モニタリング調査結果)

「パリ宣言」の第2回モニタリング調査結果が判明しました。

■公共財政管理システム、技術協力の調和化、アンタイド化の3つの指標では大きな進展

第2回モニタリング調査結果によると、12の指標のうち、被援助国の公共財政管理システムの改善(指標2a)、技術協力の調和化(指標4)、援助のアンタイド化(指標8)においては大きな進展が見られ、特に技術協力の調和化は2010年の目標値を早々と達成しました。

■その他の指標では進捗は遅く、危ぶまれる2010年までの達成

一方で、実施可能な開発戦略の有無(指標1)、被援助国のシステムの活用(指標5)、合同ミッション・分析の実施(指標10)、実績評価枠組の有無(指標11)などでは、第1回調査から比較すると僅かな進捗しか見られず、また2010年目標を大きく下回る結果となりました。さらにプログラムベースアプローチに基づき供与される援助の割合(指標9)、相互評価の実施(指標12)については、第1回調査から後退、もしくは進展がない結果となっており、これらの指標の2010年目標の達成が危ぶまれます。

パリ宣言のモニタリング結果と2010年目標

指標	指標の概要	第1回結果	第2回結果	2010年目標
1	実施可能な開発戦略の有無	17%	24%	75%
2	公共財政管理システムの改善	NA	36%	50%
3	援助フローの国家予算化	42%	49%	85%
4	技術協力の調和化	48%	59%	50%
5a	公共財政管理システムの活用	40%	43%	60%
5b	調達システムの活用	39%	42%	80%
6	並行プロジェクト実施ユニットの削減	1832	1407	611
7	援助の予測可能性	41%	45%	71%
8	援助のアンタイド化	75%	83%	増大
9	プログラムベースアプローチの援助	43%	42%	66%
10	合同ミッション、分析の実施	18%、42%	20%、44%	40%、66%
11	実績評価枠組の有無	7%	9%	38%
12	相互評価の実施	22%	22%	100%

■12指標だけで測定できない援助効果向上の取組

このような中、12の指標はパリ宣言による取組の一部のみを指標化しただけであり、あくまでも参照値であること、また各国の事情は異なり、それぞれの事情に合わせた援助効果向上の取組が必要であることが認識されてきています。また、モニタリング指標自体は、各国におけるドナーと被援助国政府による援助効果の対話促進に貢献している点なども指摘されています。

第2回モニタリング調査結果は9月に開催される援助効果向上ア克拉ハイレベルフォーラム会合に提出され、今後の援助効果向上の取り組みを議論する際の重要な参考とされる予定です。